

開講期	2025年度後期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	5337 日本古語を学ぶ2			開講形態（隔週 偶数＝隔週2コマ）	週間授業
種別	人数制限(抽選)			定員	100
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	水曜3限				
教室	B207教室				
代表教員	津田 博幸				
担当教員	津田 博幸				
テーマと到達目標	『源氏物語』を通して古代日本語を読めるようになることと、古代語を通して日本語について深く考えられるようになることを目指す。『源氏物語』は第一級の文学である。そして、その文章の凄さ・おもしろさは原文（古語）で読まないといけない（『源氏物語』に対して現代語の訳本はみな無力である）。初学者でも大丈夫のように手引きする。辞書を引き引き苦労しながら、しかし、ぜひ楽しんでほしい。				
概要	前期からの引き続きで「須磨」の巻を読む。主人公光源氏は官位を剥奪され、自発的謹慎生活を送ることになる須磨の地へ向かうが、その前に愛妻紫の上や不義密通の秘密を共有する藤壺などと別れの言葉をかわす。その際の人々の心情が和歌のやりとりを中心に描かれている。『源氏物語』はこの間の描写に多くの紙幅を割（さ）いているが、それが物語の悲劇性を高めてゆくのである。このあたりを原文を読みつつ考えてゆく。講義形式。なるべく楽しくやりたい。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員（複数の教員が担当する場合のみ記載）	授業方式
第1回	前期までのストーリー・主要登場人物の確認。				対面授業
第2回	語り手が出発前を回想（以下、同じ）――源氏、出発前に紫の上と語る。				対面授業
第3回	紫の上の逆境。				対面授業
第4回	源氏、紫の上を慰める。				対面授業
第5回	源氏、紫の上と歌を贈答。				対面授業
第6回	源氏、出発の支度。				対面授業
第7回	源氏の女房たちへの配慮。				対面授業
第8回	源氏、失脚の原因になった朧月夜と歌の贈答。				対面授業
第9回	源氏、出発の前日、藤壺に別れの挨拶。				対面授業
第10回	源氏、藤壺に心境を語る。				対面授業
第11回	藤壺、源氏と歌を贈答。				対面授業
第12回	源氏、賀茂神社の前で歌を詠む。				対面授業
第13回	源氏、故桐壺上皇（源氏の父）の墓参り。				対面授業
第14回	源氏、東宮（源氏と藤壺との不義密通で生まれた子）に挨拶。				対面授業
第15回	源氏の須磨退去に対する貴族社会の反応。				対面授業
成績評価の基準	全授業時数の3分の2以上の出席と課題提出を必須とする。毎回、授業後にポータルを通して課題（その日の講義内容に対する理解の確認、発展的考察・質問などを200字以上）を提出。毎回の課題の評定の総計で評価する。				
履修にあたっての留意事項	・「日本古語を学ぶ1」（前期）と合わせて履修されることをお勧めする。 ・国語の教員免許取得希望者はぜひ履修してほしい。 ・古語辞典を持参すること（高校時代に使っていたものでよい。電子辞書も可）。 ・オンライン授業の併用は原則として行わないが、受講者に病気等のやむをえない事情がある場合はZoom中継の視聴および講義後のZoom録画の視聴を認める。希望者は講義開始の30分前までにポータルの「授業Q&A」で申し出ること。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					

【種別】人数制限（抽選）授業の優先条件	下記順位のとおりに優先する [1]教職中学校・高校(国語)受講者 [2]T学科の低学年から順に優先 [3]上記[1][2]以外
---------------------	--

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	なし。		
教科書	プリントを配布。	教科書(ISBN)	
参考文献	授業中に適宜指示。	参考文献(ISBN)	